

静岡県立高等学校の在り方に係るグランドデザイン（西遠地区）

（高校教育課 学校づくり推進班）

1 要旨

西遠地区の県立高等学校の在り方について、地域協議会での協議を踏まえ、グランドデザインを策定した。

○スケジュール

時 期	内 容
令和6年11月18日	第1回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和7年 5月27日	第2回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
9月 4日	第3回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
11月19日	第4回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和8年 2月 6日	第5回県立高等学校の在り方に係る地域協議会（グランドデザインの検討）

2 グランドデザインの概要

- ・視野を広げる「選択できる多様な学び」を基盤として、課題解決に向けた「実社会に生きる探究的な学び」を、西遠地区全体で実践するための最適な方策を検討

(1) 目指す人物像

○多様性を認め合い、自らの手で世界や地域を変える人

- ・世界的課題に立ち向かい、変化に対応しながら、解決までまい進する人
- ・それぞれの場所で夢や目標をかなえつつ、地域の発展に積極的に関わる人
- ・広く他者を理解し、協働しながら、ものごとを遂行できる能力を持つ人
- ・自身の可能性を広く見出し、自分のフィールドで社会とつながり活躍する人

(2) 目指す学校像

- ・各分野のトップランナーを目指し、世界で活躍できる素養が身につく学校
- ・分野横断的学びを通じて、社会に新たな価値をもたらす力が身につく学校
- ・専門的な設備を活用し、変化に対応できる深い知識・技術が身につく学校
- ・豊富な地域資源を活用した学びで、自ら課題を発見し解決する力が身につく学校
- ・地域等での実践的な学びを通じて、地域社会を活性化する力が身につく学校
- ・学び方の多様さと共生・共育の融合により、多様性への理解を深める学校

(3) 改編（再編整備）の方向性

令和21年度頃までに、現在の18校から13校程度の適正規模の公立高校へ、段階的に改編する。再編に際しては、全13校の役割・配置を構想した上で、これを指針として個別協議を行う。ただし、この構想は時代の変化を踏まえ柔軟にアップデートしていく。

①適正規模を下回る高校や、特別な支援を必要とする生徒の学習環境を整備するなど、政策的個別課題に対応する高校（開校時期：～R14頃）

②上記以外の高校（開校時期：～R21頃）

(4) 今後の対応

各学校におけるグランドデザインの具現化については、各市・学校と詳細な協議を行った上で決定する。

西遠地区〈公立高校〉のグランドデザイン

【課題認識・全県】

- 少子化が進行する中での高校の改革（配置と規模のあり方など）
- VUCA、Society5.0など変化の激しい時代を生き抜く力

【課題認識・西遠地域】

- 令和20年度までに生徒数は34%減少、現在の学科配置・学級規模維持が困難になる
- 西遠地区の産業を支える多様な人材を、地域に輩出できなくなる可能性がある
- 多様な背景を持つ生徒全てに応えられる教育環境の整備が必要

【高校改革の基本認識・全県】

- 行ける学校から行きたい学校へ、画一から多様へ（学びの変革）
- 地域・実社会と共にある学校（開かれた学校づくり）
- 時代の変化を踏まえた教育基盤（学校の配置・規模等）

【高校改革の基本認識・西遠地域】

- 視野を広げる「選択できる多様な学び」を基盤として、課題解決に向けた「実社会に生きる探究的な学び」を実践する
- 上記学びを通じて、西遠地区を越え、世界に変革を巻き起こす気運を受け継いでいく
- 多様な他者と活動できる教育環境、幅広い科目設定等を可能にする学級規模、多彩な学科・コース等の設置、充実した施設・設備、地域資源

【目指す人物像】

多様性を認め合い、自らの手で世界や地域を変える人

- ・世界的課題に立ち向かい、変化に対応しながら、解決までまい進する人
- ・それぞれの場所で夢や目標をかなえつつ、地域の発展に積極的に関わる人
- ・広く他者を理解し、協働しながら、ものごとを遂行できる能力を持つ人
- ・自身の可能性を広く見出し、自分のフィールドで社会とつながり活躍する人

【目指す学校像】

- ・各分野のトップランナーを目指し、世界で活躍できる素養が身につく学校
- ・分野横断的学びを通じて、社会に新たな価値をもたらす力が身につく学校
- ・専門的な設備を活用し、変化に対応できる深い知識・技術が身につく学校
- ・豊富な地域資源を活用した学びで、自ら課題を発見し解決する力が身につく学校
- ・地域等での実践的な学びを通じて、地域社会を活性化する力が身につく学校
- ・学び方の多様さと共生・共育の融合により、多様性への理解を深める学校

【具現化のための方策】

【学びの変革のあり方】

- 生徒の選択肢が広がる多様な学びの展開
 - ・生徒の興味・関心・学習ニーズに柔軟に対応できる多様な科目設定
 - ・一定の条件の下、学科変更等ができる方策の検討
- 地域の実情・変化に対応できる学び
 - ・地域特有の資源に直接触れる学びの展開
 - ・AI等を高度に使いこなす力の育成
- 他者と協働する豊かな人間性の醸成
 - ・高校(全定通)・特支が連携したインクルーシブ教育のさらなる推進
 - ・実技系科目、部活動や学校行事等の教育活動の充実

【地域との連携のあり方】

- 地域を構成する多様な主体との連携強化
 - ・大学、企業等と連携した実践的なカリキュラムの構築(スマート化を通じた持続可能な産業等)
 - ・自治体等と協力し、生活や暮らしに関わる課題の解決策を考える機会の提供
 - ・地域の歴史・文化に直接触れ、地域の価値を再創造する活動
 - ・海外展開している県内企業の実務課題等を題材とするケーススタディ等の実践
 - ・地域のロールモデルを具体的に学ぶカリキュラムの導入

【教育基盤のあり方】

- 多様な学びが提供可能な学科やコース等の設置
 - ・普通科でも実学的学びが可能となるコース等の設置
 - ・単位制高校への移行の検討等
- 生徒の能力を最大限に引き出す学習環境の整備
 - ・幅広い科目設定・他者との協働が可能な学級規模
 - ・生徒の多様な学びを可能とする、ICT機器の効果的な活用や遠隔教育の実施
- 改編(再編整備)の方向性
 - ・令和21年度頃までに、18校から13校程度の適正規模の公立高校へ、段階的に改編

目指す人物像



多様性を認め合い、自らの手で
世界や地域を変える人

- ・世界的課題に立ち向かい、変化に対応しながら、解決までまい進する人
- ・それぞれの場所で夢や目標をかなえつつ、地域の発展に積極的に関わる人
- ・広く他者を理解し、協働しながら、ものごとを遂行できる能力を持つ人
- ・自身の可能性を広く見出し、自分のフィールドで社会とつながり活躍する人

生徒自身が「選択できる多様な学び」

農林水産 ものづくり 文理融合
ビジネス イノベーション

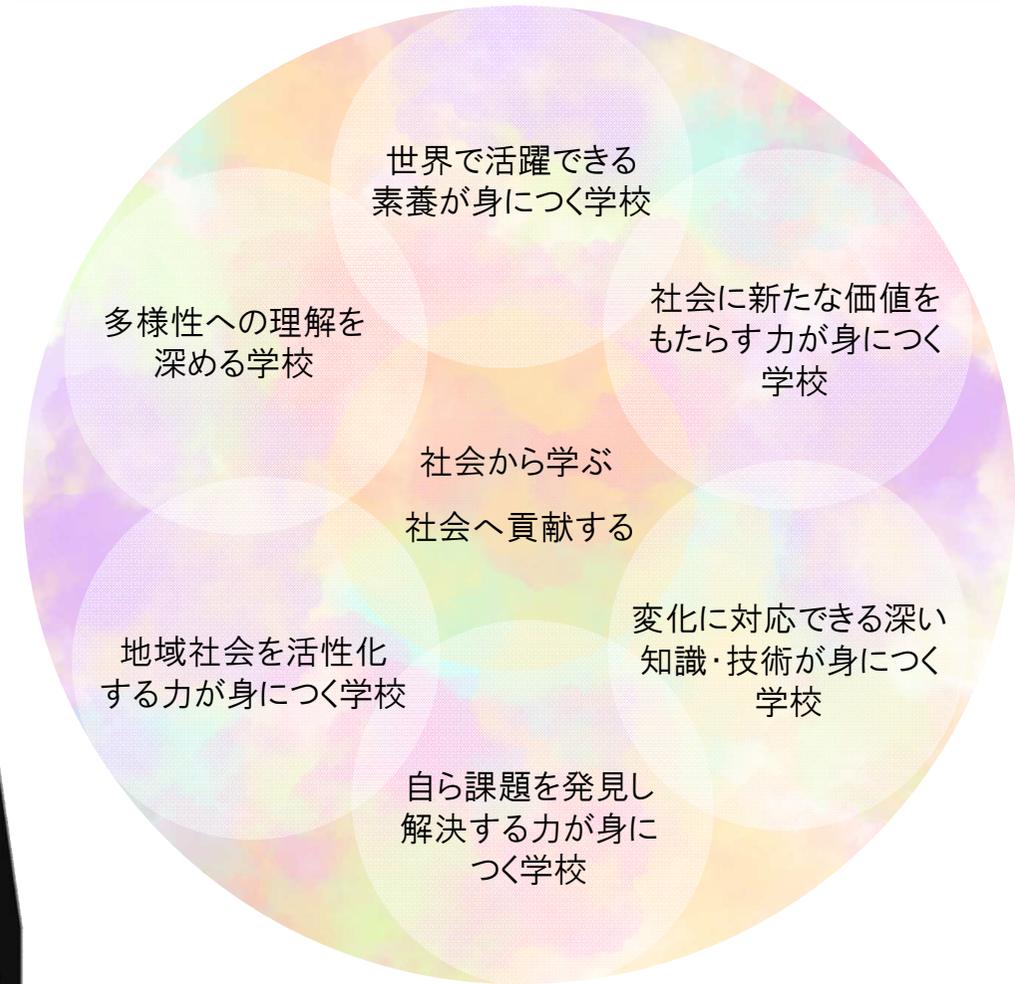
課題解決に向けた「実社会に生きる探究的な学び」

文化芸術 他者理解 ライフスキル ...

学びを実現する教育基盤

- ・多様なコースの設置
- ・他者との協働が可能な学級規模
- ・世界や地域で活躍する地域人材
- ・西遠地区内の幅広い産業構造

西遠地区で実現する学校像



- ・ 西遠地区の公立高校全体で6つの学校像を実現する
- ・ 各高校においては、上記学校像のうち、一つないし複数の学校像を具現化する

多様な学びの実現に向け、令和21年度頃までに、現在の18校から13校程度の適正規模の公立高校へ、段階的に改編